

鳥たちの適応方法

北海道東部の環境は、湿原、草原、森林、そして岩がちな海岸線と多様です。この多様な環境がさまざまな固有の鳥類と渡り鳥を支えています。その中には、湿原や干潟で餌を狩るための長い脚と長いくちばしを持つものもいれば、小型哺乳類や魚をつかみ上げるための鋭い爪と広い翼を持つものもいます。

タンチョウ（学名： *Grus japonensis*）とアオサギ（学名： *Ardea cinerea*）は湿原で狩りをします。これらの種は、長いくちばしを使って、小型の魚、両生類、哺乳類を水から獲ります。オオハクチョウ（学名： *Cygnus cygnus*）は釧路周辺の湖と湿原で過ごし、水かきのついた足で植物の根を掘ります。シマフクロウなどの肉食の鳥は、小型哺乳類や魚をつかめる強力な脚と爪を持っています。